

【フロンティアスクール用中間報告書様式】

(熊本県)

学校の概要(平成15年4月現在 実施計画書から転載可)

熊本県本渡市立本渡南小学校 (学力向上フロンティアスクール)									
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	3	3	3	3	3	3	2	21	31
児童数	96	113	109	106	108	118	8	655	

実践研究の概要

1. 主題(テーマ)

生きる力を育む確かな学力を身につけた南っ子の育成

2. 内容と方法

(1) 実施学年・教科

・全学年対象 全教科

1年次の研究成果と課題をもとに、確かな学力を身につけさせるうえで必要な基礎・基本や学び方などの確実な定着を目指す個に応じた指導の在り方の実践的な研究に取り組むため

(2) 年次計画

テーマ

生きる力を育む確かな学力を身につけさせるための指導法の研究

仮説

(1) 多様な学習の場において個に応じた指導の工夫改善を図れば、確かな学力を身につけた子どもが育つであろう

(2) めりはりのある授業の中で、自ら学ぶ意欲と態度を育て、指導と評価の一体化を図れば、基礎基本を確実に身につけた子どもが育つであろう

研究内容・方法

研究内容

(1) 理論研修

新教育課程における学力のとらえ方の共通理解
研究指定校(フロンティア事業)の趣旨の共通理解
研究主題、仮説、研究の視点などの決定

(2) 研究の基盤作り

学力の向上にむけた校内体制などの基盤整理

ア 多様な学習の場の創出

日課表の工夫改善

(2校時と3校時の間に基礎学力の定着を図ることなどをめざしたチャレンジタイム 帯時間 などの設定)

イ 学習内容・学習方法との出会いの場の工夫等

児童の学習への思い高める教材や、身につけたい学習方法との出会いの場の工夫

ウ 個に応じた指導の工夫改善

(ア) 指導形態の工夫改善

(一斉指導、小グループ別指導など学習内容や学び方に応じた指導形態の工夫改善)

(イ) 指導体制の工夫改善

(T T・少人数指導など指導体制の工夫改善)

エ 指導と評価の一体化

精度の高い評価基準による授業の展開

(評価基準の作成、診断的評価・形成的評価など多様な評価を取り入れた授業の展開)

オ めりはりのある授業づくり(熊本型教育の実現)

能動型学習と徹底指導

(基礎基本を明確にした授業作り)

カ 学び意欲と態度の育成

(ア) 児童の意欲を高める学習過程の工夫

(国語・算数における基本的な学習過程の確立)

(イ) 基本的な学習態度の定着を図るための共通理解と共通実践

(学習虎の巻 基本的な学習訓練に関する手引き書 の作成)

キ 授業を支える取組

(ア) チャレンジタイム(帯時間活動)

(イ) 補充指導の共通理解に基づく計画的な実施

平成
14
年度

研究方法

- (1) 研究組織の確立(理論部、学習環境部、国語部、算数部)
- (2) 実態調査, 分析
児童の学力等に関する実態調査, 分析
(基礎的な学力や、学力に関わる基本的生活習慣の定着状況に関する実態調査)
- (3) 授業実践等による検証
研究授業等による検証・・・職員全員参加の研究授業
(学習訓練の共通理解、国語科・算数科における学習過程の検証など)
- (4) 研究発表会の実施
(平成15年2月5日実施：国語・算数)
- (5) 今年度の反省と次年度の取組の計画

平成
15
年度

昨年度提出文書から変更があったものについてその理由等を記述

テーマ

生きる力を育む確かな学力を身につけた南っ子の育成

研究の見通し(仮説)

- (1) 本研究をとおして目指す児童像
基礎基本を身につけ、主体的に学ぶとともに、
わかる できる
身につけた力を積極的に活用できる子ども
使える
- (2) 仮説
仮説1 多様な指導方法や指導体制を生かした授業のなかで、学習スタイル、習熟度、興味関心に応じた指導法や教材の工夫改善を図っていけば、基礎・基本を身につけた子どもが育つであろう。
仮説2 計画的な指導と評価の上に立っためりはりのある授業のあり方を追究していけば、多様な学習の場で、身につけた基礎・基本や学び方を生かした学習を進める子どもが育つであろう。
単元を通して学習意欲を高め主体的に学習していく態度が定着できるように、単元の構成を工夫していきたいと考え仮説を修正
- (3) 研究内容・研究方法
研究内容
ア 仮説及び研究の視点の共通理解
研究の視点・・・視点 指導方法・指導体制の工夫改善
視点 計画的な指導と評価
視点 子ども主体の授業づくり
視点 教材の工夫改善
イ 単元の見直し
主体的な学習態度を定着させるため、単元を通して学習意欲が高められるように、単元の構成を工夫した。
単元のはじめを「基礎的・基本的事項の習得の段階」わかる、
単元の中〔なか〕を「基礎的・基本的事項の習熟の段階」できる、
単元の終わりを「学んだことを駆使し、問題を解決していく段階」使えるに整理しなおし、それぞれの段階で、個に応じた指導ができるように授業改善を図ってきた。
ウ TT(少人数)指導計画の作成
一人一人の児童の個人差を、学習の到達度、学習時間、学習適性、興味関心、生活経験の5つからとらえ、それを興味関心・学習スタイル・習熟度の3つの観点から整理した。そして一人一人の学習上の要求にきめ細かに対応するため、各学年部に複数の指導者を配置し、協力指導体制の確立を図った。
(1年:学習指導補助教員 2年:くまもとはばたきモデル事業講師 3年以上:TTまたは少人数指導担当)
この複数指導体制を生かし、TTによる協力指導、習熟度や課題選択による少人数指導など多様な指導法を単元に計画的に位置づけ、より効果的な指導が進められるようにした。
エ 指導方法・指導体制の工夫改善
単元を通して学習意欲を高めしていくための指導法の研究を以下の点から取り組んだ。

(フ) 単元はじめでの学習計画の立て方について

低学年での学習の進め方(国語科・算数科をとおして検証)
単元終わりでの学習課題の紹介 T Tによる役割演技で
順序よく既習内容と関連させながら学習内容を提示
中・高学年での学習の進め方(国語科・算数科をとおして検証)
単元終わりの学習課題の提示 単元終わりの学習課題の
選択 学習内容を考える 単元終わりの提示された
発展課題を選択する(使える場の決定) で選んだ課題
を解決するためにどんなことがわかり、できる」とよいかを考
え、学習計画を立てる 単元でがんばりたいめあてを決め、
これからの学習の心構えを持つ

児童の変容

次の時間の学習内容を進んで学習したり、学習計画に自分の
やってみたいことを反映させようとしていたりする児童が増えてき
た。

(イ) 単元中〔なか〕学習内容の確実な定着を図る個に応じた指導の
進め方についてどの児童にも「わかる・できる」自信を持たせる
ための個に応じた指導を、学習の場の設定及び指導体制の工夫の
点から検証した。

学習の場の設定の工夫について(国語科をとおして検証)
解決方法別ヒントカードや学習の手引き、相談コーナーの活
用によって自力解決を支援する。
解決方法別による学び合いの場と全体の学び合いの場でお互
いの解決方法のよさを深め合う。
指導体制の工夫について
(習熟の程度に応じた複線型授業・・・算数科をとおして検証)
B基準に達した児童
学習の手引きなどをもとに自分で学習を進める。
B基準に達しなかった児童
スモールステップ学習でつまずきの様子を指導者が見取
り、個別の支援を行う。
そのために習熟度別コース選択学習や難易度別課題選択学
習に対応するT Tや少人数指導を取り入れる。

児童の変容

自分に合った学習方法を選択したり、ヒントカードを活用
したりしながら、学習を進めたことで「わかる・できる」段階
の学習に自信を持ち意欲的な姿が見られるようになった。

(ウ) 使える場の設定と応用発展的な学習の進め方について

単元中〔なか〕での学習を生かし、単元終わりで使える場を
設定(国語科をとおして検証)
単元の教材で学んだ内容を使い発展的に学習を進めていく場
を単元終りに設定する。
(実践例：低学年「紙人形劇をしよう」中学年「紹介ポスター
を作ろう」高学年「子ども環境会議を開こう」など)
応用発展的な学習の進め方(算数科をとおして検証)
興味関心に応じた課題選択学習や習熟の程度に応じたコース
選択学習を設定し、児童自ら学習を進められるようにする。

児童の変容

単元の中で身につけた内容を使い意欲的に解決していこうと
する児童が増えてきた。

オ 計画的な指導と評価

- (ア) 単元前(児童の実態の把握)
レディネステスト、プレテストの実施
(毎時間予想されるつまずきの治療的指導やヒントコーナーでの支援方法を考えることに役立てる。)
- (イ) 単元はじめ(単元の学習計画を立てる活動)
単元との出会いの場に関心を持っているか、意欲は高まっているかを把握する。
(TT を効果的に活用し、児童一人一人の発言や学習態度に着目した見取りを行い、自分のねらいや単元の学習へ向かう心構えを持たせる。)
- (ウ) 単元中〔なか〕(基礎・基本の定着状況の見取りと指導)
児童は確実に「わかった」「できた」時に自信を持ち、「もっと学びたい」という意欲を高めることができると考える。「どこで」「どんな方法で」「どんな姿」を見て「ねらいを達成できた」と判断したらよいかを考え評価基準を設定。基準に達した児童と達していない児童、それぞれの学習を保障するため評価後の指導のあり方についても検討し実践。

単元中〔なか〕での形成的評価を生かした指導

(国語科・算数科を通して検証)

指導したことやつまずきの様子などをメモにとりながら形成的評価を積み重ね、単元を通して指導と評価をつなげた。学級学年全体の傾向としてつまずきが多い問題は、チャレンジタイムなどで一斉に指導した。

個別にじっくり指導を行った方がよい児童には、モアチャレンジタイム(補充補充の時間：木または金に実施)などで補充指導を進めたり、教育相談で学習の仕方、家庭での学習の習慣化について助言を行ったりした。

児童の変容

「わかる・できる」自信が意欲となり、振り返りの内容でも次時を期待するものが増えてきた。

- (エ) 単元終わり(「使える喜び」が体感できているか、どの内容が使えるのかの見取り)
児童一人一人の振り返りの言葉や学び合いの場での発言に目を向ける。単元全体の振り返りにも目を向け、自分のめあてが達成できたかどうか、そのためにどんな学習の仕方をしてきたかを児童自ら振り返る。

B基準に達していない児童への手立て

(国語科・算数科をとおして検証)

国語・・・重要語句に着目させるための学習シートの工夫
算数・・・相談コーナーでの、図・絵・具体物の準備・既習内容の掲示

B基準に達した児童への手だて

手引きにどんなことを深めたらよいかなどの助言を入れ、進んで学習を深められるように配慮

できる自信をつけるための練習用教材

繰り返し学習に使える1単位時間1枚のステップアッププリントの作成と実施

児童の変容

手引きを活用しながら自分で学習したり、ステップアッププリントを進んで活用したりする児童が増えてきた。

カ 教材の工夫改善

- (ア) 単元はじめ(単元との出会い)
単元の本質に迫り、児童の「やってみたい」「調べてみたい」思
いを引き出す教材の工夫
- (イ) 単元中〔なか〕
学習内容を確実に定着させるための手引きや学習シートの開発

単元への関心を高めるための教材の工夫
(国語科・算数科をとおして検証)
国語・作者の他の本の紹介、写真の提示など
算数・算数的な活動ができる教具、日常生活での事象提示など
単元を見通し学習計画をたてるための教材工夫
(国語科・算数科をとおして検証)
単元終わり「使える」段階として適切な学習課題を提示し、
その解決のためにはどんなことが「わかる・できる」とよいか
考える活動を実施。その際、1時間ごとの学習内容を記入した
カードを児童に配布し、カードを並べることをとおして学習の
進め方について考える手がかりとした。

児童の変容

単元を見通して1時間1時間目的を持って学習する児童が増え
てきた。

- (ウ) 単元終わり(単元中〔なか〕で身につけた学習方法を生かし、「使
える」喜びを味わえる教材の工夫)
単元終わりでは、児童の興味・関心や学習スタイルに応じた課題
や身につけた学習方法を生かして学習を進められるような課題を用
意し、児童が「使える」喜びを体感できるようにした。
- (エ) 学習を支える基礎学力(読む・書く・計算)を高める教材の整備
基礎学力を定着させるため、児童一人一人の実態に合わせて、学
年の枠を超えて取り組めるような学習シートを用意し、いつでも使
えるようにファイルにまとめ、各学年に配布した。

キ P T Aとの連携

南っ子バックアップ委員会と連携を図りながら、児童の家庭生活の
改善を図っていく。

家庭での生活や保護者の意識に関する実態調査の実施
保護者啓発のための通信の発行
保護者の主体のあいさつ運動の実施 など

研究方法

- ア 研究組織の確立(理論部、学習環境部、国語部、算数部)
- イ 実態調査、分析
児童の学力等に関する実態調査、分析
(基礎的な学力や学力に関わった基本的な生活習慣の定着状況に関する実
態調査の実施と分析)
- ウ 授業実践などによる検証
研究授業などによる検証・・・職員全員参加の研究授業
(学習訓練の共通理解、研究の視点を受け、単元のはじめ・中(なか)・終
わりでの検証授業)
- (4) 研究発表会の実施
- ア 公開研究授業の実施
6月20日 指導と評価の一体化 (4年:算数)
2月10日 教科学習と総合的な学習の時間の双方向性について
(3年:総合的な学習の時間 6年:社会科)
- イ 2年次研究発表会の実施
11月28日 研究の視点に沿って提案授業を実施

(5) 今年度の反省と次年度の取組の計画

基礎基本を身につけ、主体的に学ぶ姿は見てきたものの、身につけた力を積極的に活用するまでには到達していないことから、次年度は身につけた力を積極的に活用できる力を育成するための効果的な指導・支援の在り方について実践的な検証をすすめていきたい。

フロンティア事業の趣旨及び確かな学力の定着に向けた取組の一層の充実を期すため

平成
16
年度

テーマ(予定)

生きる力を育む確かな学力を身につけた南っ子の育成

研究の見通し(仮説)

仮説1 多様な指導方法や指導体制を生かした授業のなかで、学習スタイル、習熟度、興味関心に応じた指導法や教材の工夫改善を図っていけば、基礎・基本を身につけた子どもが育つであろう。」

仮説2 計画的な指導と評価の上に立っためりはりのある授業のあり方を追究していけば、多様な学習の場で、身につけた基礎・基本や学び方を生かした学習を進める子どもが育つであろう。

研究内容・方法

「わかる・できる・使える」のうち、特に「使える」に焦点を当てて研究を進める。

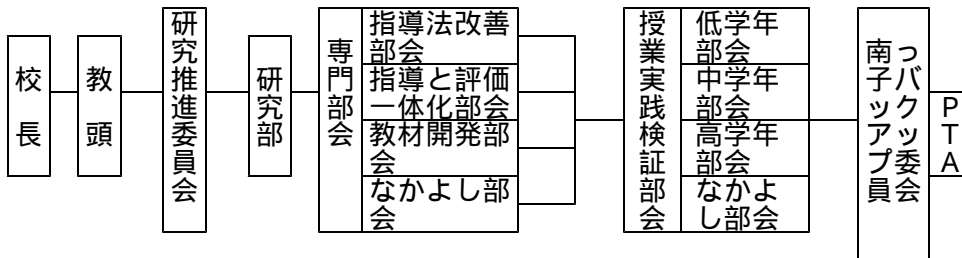
研究の視点

ア 指導方法・指導体制の工夫改善

イ 計画的な指導と評価

ウ 教材の工夫改善

(3) 研究推進体制



平成15年度の成果及び課題

1. 研究の成果

ア 個に応じた指導の充実を図るべく、習熟度別や課題選択などのコース別学習に取り組む複数指導体制が整えられ実践的な検証ができた。

平成15年度複数指導年間計画 国・算作成

イ 単元の目標と指導の観点、評価の方法、評価後の手だてを指導者が明確に持つことで、児童一人一人への指導・支援が適切に行えるようになってきている。

ウ 教研式標準学力検査(平成14年度末実施)によると、全校平均は学力偏差値で前年度と比較し2.3、成就値は2.5上昇しており、学力の向上がうかがえる。

エ 学習の手引きや学び方に関する掲示物を活用して、自分で学習をしていく学びの姿が定着しつつある。

オ グループでの話し合いを取り入れたことで、自分の考えを表現し合う姿が見られるようになってきた。

2. 今後の課題

ア 学年の発達段階に応じた主体的な学び方の実践的検証

イ 個の学びの確かな見取りと評価を生かした複線化指導の実践的検証

ウ 学習の個性化を目指した授業展開の実践的検証

エ 児童一人一人の実態に応じた教材の開発と活用

エ 一斉指導のよさを生かす学び合いの充実

・学力把握のための学校としての取組

定期的に基礎学力の一つである漢字と計算の定着状況を評価し、指導に生かすためのテストの実施（それぞれ月に1回）
 児童の知識・技能などの習熟状況を客観的に評価し指導に生かすための、標準学力検査(教研式)の実施(年1回 2月実施)
 児童の知識や技能と合わせて思考力や判断力を評価し指導に生かすための熊本県教育委員会作成テスト実施(年1回 12月実施)

・フロンティアスクールとしての成果の普及について

(1) 公開研究授業の実施

ア 目的 確かな学力の向上を目指した本校の研究の検証及び本校の取組の管内小・中学校への波及

イ 第1回公開研究授業

(ア) 日時 平成15年6月20日(金)

(イ) 場所 本渡市立本渡南小学校

(ウ) 内容 提案授業

指導と評価の一体化の視点に立ち、単元はじめでの学習意欲をどのように高め、またどのように見取っていくか

(I) 実施学年 4年3組 算数

(オ) 参加者 参加者 60名

ウ 第2回公開研究授業

(ア) 日時 平成16年2月10日(火)

(イ) 場所 本渡市立本渡南小学校

(ウ) 内容 提案授業

教科学習と総合的な学習の時間における双方向性のある学習の進め方について

講演(講師 熊本大学教育学部 宮本光雄教授)

演題「確かな学力を育成する教科学習と総合的な学習の在り方」

(I) 実施学年 3年1・2・3組 総合的な学習の時間

6年2組 社会科

(2) 2年次研究会の実施

ア 目的 確かな学力の向上を目指した本校の研究の検証及び本校の取組の管内小・中学校への波及

イ 期日 平成15年11月28日(金)

ウ 場所 本渡南小学校

エ テーマ 生きる力を育む確かな学力を身につけた南っ子の育成

オ 対象 天草郡市 小中学校教職員
 本校校区幼稚園、保育園等

公開授業

指導法改善部会 4年1・2・3組算数

6年3組理科

指導と評価の一体化部会 1年2組算数 5年2組国語

教材開発部会 2年2組国語 3年3組算数

なかよし部会 なかよし1・2組

カ 参加者 150名

(3) 成果 本校の取組の中で参考となったもの(参観者アンケートによる)

ア 表現力をつけるための指導

イ 単元作りの中で(興味関心を生かした課題選択学習や習熟に応じた課題選択などの複線型授業

ウ 指導方法など(学習の手引き・学習訓練・ステップアッププリント・掲示・相談コーナー)など

次の項目ごとに、該当する箇所を知チェックすること。(複数チェック化)

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 / 14年度からの継続校
- 【学校規模】 6学級以下 / 7～12学級
 13～18学級 / 19～24学級
 25学級以上
- 【指導体制】 / 少人数指導 / TTによる指導
 一部教科担任制 その他
- 【研究教科】 / 国語 / 社会 / 算数 / 理科
 生活 / 音楽 / 図画工作 / 家庭
 体育 / その他
- 【指導方法の工夫改善にかかわる加配の有無】 / 有 無